

議長（千葉 薫君） 次に、9番、下道議員の質問を許します。

9番、下道議員。

9番（下道英明君） 一般質問、通告順に従いまして、質問要旨を補足しながらお伺いしたいと思います。

今回は、当町の教育行政、指定管理者制度の現況、そして安心・安全なまちづくりについてお尋ねしてまいります。よろしくご答弁お願いいたします。

最初に、教育行政についてお伺いしてまいります。ことし3月の広報洞爺湖に、平成22年度全国学力学習状況調査結果が掲載されました。その中で、平成22年度の洞爺湖町の平均正答率を見ると、小中学校ともに全国、全道の平均正答率を下回っているという形で、今回、実施したところは市町村178ございますが、その中で小学校の国語Aが市町村別で見ますと大体110番前後ですか、そしてまた、国語Bにおきましては120番から130番ぐらいです。そして、算数のほうは178市町村実施の中では百三十五、六番、算数Bに関しては127番から130番ぐらいでしょうか。

また、中学校におきましては、中学校の国語Aに関しては洞爺湖町非常にいい成績だったのかなと、75番から76番、またBのほう応用に関しては百五十四、五番だったと思いますが、また数学のほうに関しましては178市町村中、150番から153番と、また数学Bに関しても145番から148番という形になって、非常に大変厳しい調査結果が出ております。

広報のほうにも記載されておりましたけれども、この調査は学力のごく一部を示すものであり、学力の伸びるスピードも個人差があり、しかも個人の能力は学力だけではありませんと書いてございますが、余りにも低空飛行だと言わざるを得ませんけれども、最初の質問でございます。町内の小学校、中学校は独自に学力向上への取り組みを当然していると思いますが、概略を述べていただきたいと思います。

議長（千葉 薫君） 遠藤管理課長。

管理課長（遠藤秀男君） 議員おっしゃられますように、ことし3月公表させていただきました学力、学習状況調査、平成22年度の状況でございますが、確かに全国平均どころか、全道平均も下回っているというような状況でございます。

洞爺湖町におきまして、中学校、小学校それぞれ3校ございますけれども、平均でいきますとすべての科目で北海道平均を下回っているというような状況でございます。特に、中学校の国語Aでしょうか、数学Aでは非常に低い状況が、順位的なものについては私ども大きなくくりの中で発表させていただいておりますので、正式な順位というのは控えさせていただきたいと思っております。

こうした結果を受けまして、各学校の学力向上の取り組みはそれぞれしていただいております。それぞれ各学校で独自に進めておりますが、主に共通して言えるのが、まず1点目としましては朝読書、朝学習というのを各授業開始前に10分から15分実施していただいております。

それともう一つはTT授業といいまして、チームティーチングということで、1クラス

の中に先生が2人入って授業を進めるというような形、それから放課後の学習の補充支援というのでしょうか、放課後補充学習、それから家庭学習の指導につきましても各学校、今のところまだすべてではないのですが、各家庭学習の手引きというのもつくっていただいて、進めていただいております。

また、長期休業中、夏休みも冬休みになりますけれども、ここらにおける学習サポート等も実施されております。また、各学校、校内研修としまして、2人の先生の授業を学校の全員の先生で見て、その後、指導、校長先生から指導があったり、それから各先生方との討議というのでしょうか、そういう形が進められております。

それぞれの学校で、また独自の取り組みがございますけれども、例えば虻田小学校では、ちょっと今年度はまだ実施していないので、今年の授業の振り返りカードということで、授業の終わった後、自己評価するような形もとっております。

それから、洞爺小学校では、特に算数に重点を置いておまして、4力年の計画という形で今、算数の授業改善というのを進めてきております。

虻田中学校におきましては、基礎力アップコンテストというのを実施しておまして、5教科、年に1回、自己目標の点数を挙げまして、その自己目標まで行かなかつたら追試というような形で進めている状況でございます。

洞爺湖温泉中学校につきましては、選択教科制というものをとっております。通常授業以外にも英語、数学を週1時間から2時間選択して授業を受けるというような状況でございます。

洞爺中学校におきましては、小規模校というのを活用いたしまして個人カルテというのを作りまして、学習、それから生活の部分で個人票をつくって活用しているような状況でございます。

議長（千葉 薫君） 下道議員。

9番（下道英明君） 今、課長のほうから詳細な説明していただきまして、各小学校、各中学校、現場での学力向上への取り組みというのは、しっかり行われていると理解いたしますけれども、おおむねちょうど平成21年のときに道教委のほうでまとめました学力向上対策チーム報告書というのがございます。今、これ手元にあるのですけれども、この中でほぼ指導方法の工夫改善がなされていた中で、今、恐らく課長のほうおっしゃったのがほぼこの中に入っていると思うのですけれども、その中で特に今回、道教委のほうは本道の課題ということで、基礎、基本の定着、そしてまた学習週間の確率、生活習慣、生活リズムの確立、そしてまた今、先ほど読書云々がございましたが読書活動の充実、こういったところで取り組みを一層頑張っていると、また、具体的な指導工夫、先ほど今、課長ほうからありましたけれども、その中でも基礎、基本の確実な修得を図る指導の充実ですとか、チャレンジテストの活用、障がいのある児童生徒への学習支援ですとか、また、そういったところが出てきておりますけれども、その中で対策チーム、提言とか各学校の取り組みはいいのですけれども、しかし各学校間の横のつながりというのですか、今、定期的に校長会等を行っておりますけ

れども、そういうのは別として町内各小中学校の教員、教頭との意見交換というのですか、そういった取り組みの現況をお伺いしたいと思います。

議長（千葉 薫君） 遠藤管理課長。

管理課長（遠藤秀男君） 各学校間の連携、交流の取り組みというお話でございますけれども、まず一つには町には町教育研究会という会がございます。この会につきましては、町内の小中学校の先生、全教職員が参加してございます。

その中で、サークル研究というのが一つございます。これは、各教科ごと、国語とか英語とかという形でサークルを編成していただきまして、自校の枠を超えた形で活動単位を持ってもらって、共同研究を通して専門性の向上を図るとというのが一つでございます。

もう一つ、公開研究会というのがございます。これは、毎年、各学校が持ち回りで実施してございますけれども、各学校のテーマに基づいて授業等の実践発表に町内の全教職員が参加して、それぞれスキルアップを図るというものでございまして、今年度はこれから来月もありますけれども10月7日、洞爺小学校で発表が行われる予定です。

洞爺小学校では、先ほど申し上げましたが4年間の算数の研究成果を発表するという状況でございます。

それともう一つ、この町教育研究会、昨年度からちょっと取り組みを始めたものでございますけれども、ブロック研修というのを始めてございます。これは、小中の接続、それから連携を深めようというものでございまして、町内には虻田地区、洞爺湖温泉地区、洞爺地区それぞれの地域に小中学校がそれぞれございます。

そういうことで、この虻田・温泉・洞爺地区3ブロックでそれぞれの小学校、中学校の授業、例えば小学校の授業に中学校の先生全員が虻田地区であれば虻田郡小学校に来ていただいて、授業を参観すると、授業が終わった後、各先生たちでその授業の中身とか、取り組みについて協議を進めるというような形。これをそれぞれ小学校、中学校それぞれで授業参観するという取り組みを今、昨年度から実施しているような状況でございます。

それから、各学校を統一した取り組みという形、これは先ほどもお話あったかと思えますけれども、道教委は非常に今、道内の学力の低下というのを非常に苦慮しているところでございまして、6月の道議会でも教育行政執行方針の中で、平成26年度までに全国平均以上を大きな目標として取り組みを進めるという形でございます。

そういう中で、胆振教育局も胆振管内学力向上アクションプラン3カ年というのをつくっております。これは、前期が20年度から22年度末だったのですが、23から25まで、この3カ年を後期としまして、アクションプラン推進校というのを募集してございます。23年度、大体、管内の3割を目標にしていたのですが、私どもの町では6校、全校がこのアクションプラン推進校に応募していただきまして、今、指定を受けて進めているような状況でございます。

この中で、先ほどもおっしゃられておりました道教委作成のチャレンジテスト、これの活用、それから全国学力学習状況調査の過去問題の活用、学校評価の項目にこのアクションプ

ランの向上の実践内容を位置づけると、それと学校独自の実践項目の推進ということで、主にほとんどの学校はこの基礎基本の定着という部分について今、項目として挙げて推進しているところでございます。

また、先ほど校長会、教頭会というお話もありましたが、年1回、校長会と教頭会で研修会というのを持っております。これは、毎年、秋に実施されて、先日も実施されたのですが、ここでは各学校の教頭先生が各学校の研究をもとに提言を行います。

そういう形で、それをもとに討議とか協議をしていただいて、意識の供用を図っていただいているということで、今年度につきましては、洞爺湖温泉中学校、基礎基本の定着を目指す指導方法という形で研修を深めていただいたところでございます。

議長（千葉 薫君） 下道議員。

9番（下道英明君） ありがとうございます。

今、思った以上に研修が充実しているのかなというふうに思いました。また、教育委員会の取り組みの中で、当町におきまして教育長の教育行政執行にも記されておりますけれども、一つだけお尋ねしたいのですが、このところの関連ですが、洞爺湖町子供の学びサポートですか、推進会議、昨年11月から発足しておりますけれども、この会議の目的、組織形態、活動内容等をお伺いいたします。

議長（千葉 薫君） 遠藤管理課長。

管理課長（遠藤秀男君） 先ほどまで申し上げておりました、この全国学力学習状況調査、4年間実施されまして、しかもこの平成22年度の結果がやはり芳しくないということから、私も昨年11月に洞爺湖町子供の学びサポート推進会議というのを設置させていただきました。

目的としましては、人間性豊かな成長の基礎となる確かな学力の育成に向け、さまざまな提言等をいただくことを目的としております。この会議には、児童生徒の保護者、それから学校関係者、学識者ということで、10名の方で構成していただいております。

この座長には、前教育長の木村氏にお願いしているようなところがございます。特に、このうち、学校関係者につきましては、校長とか教頭先生ではなくて、現場の先生ということで、全小中学校から現場の先生を委員として選出していただいているところがございます。

主な活動としましては、全国学力学習状況調査の分析、課題の協議、それから調査結果の保護者、地域への周知方法の協議、それから質問、視聴者から見受けられた生活習慣、学習週間の向上に向けた家庭啓発の方法の協議、それから授業力向上のための協議と、この中で各学校の取り組みにつきましては、それぞれの状況を報告していただいて、全員でその現状を共有していただいているというような状況でございます。

議長（千葉 薫君） 下道議員。

9番（下道英明君） 今、サポート推進会議のほうのあらまきはわかりました。

最近、ほかの自治体でも小中学校の教員の現場レベルの学力向上に取り組むということで、お互いの横のつながりといいますか、そういったところで情報交換が行われているのですが、

特にその中で最近、先月ですか、白老町の取り組みの中で直近の新聞報道でございますが、各自治体の教育機関が音頭をとって、横のつながりをより一層絆を強めていると、そしてまた学力テストの結果というのは、ある側面から言えば失礼な話になってしまいますけれども、やはり各自治体の教育委員会の力量にも反映してくるのかなと、そういうふうに思います。

その中で、先ほど道教委のほうの学力向上チーム報告書の中にもありましたけれども、課題のある市町村教育委員会に見られる傾向ということで、こういった形で例えば市町村としての分析や改善方策を示されず、取り組みが学校任せになっているとか、あるいは市町村における研修体制が十分、整備されていないと、経験年数の少ない教員に対するフォローが十分に行われていないといったものが指摘されております。

また、成果を挙げている市町村の中で、やはり全国学力テスト等の改善策をしっかりと提示しているですとか、また、各学校に重点的に取り組むべき事項を教育委員会のほうから明確に指示していると、そして学校に対して国や道、教育機関の指定授業を積極的に先ほどお話ありました、ここはできていると思いますけれども、受けるよう指示していると、そして市町村教育委員とか、議会議員等の学校訪問、授業参観を積極的に行っていると、昨年ちょうど社会文教におりましたので、学校訪問させていただきましてけれども、そういった形で常に距離を縮めてやっていくことが大事なのかなと思います。

その中で、この中で学校支援の地域本部事業の活用や大学と連携した地域人材の積極的な活用を図るとあるのですが、この中で学校支援地域本部事業、これは有効であったと。2年前にもちょうど、議会でも一般質問されておまして、その中では学校支援地域本部事業に関してということで、地域コーディネーターの配置、学校支援ボランティアの登録と調整を行うと、また、この事業自体は平成22年までの3カ年ですから、既に補助対象事業は終わっているのですけれども、その費用はボランティア活動、保険の加入経費や事務などに充てるという形があったのですが、この学校支援事業はちょうど3月に終わっていると思うのですけれども、この学校支援ボランティアの登録状況といいますが、こういったものは大まかで結構でございますが、どういう状況でございましたか。

議長（千葉 薫君） 天野社会教育課長。

社会教育課長（天野英樹君） 学校支援本部事業における、学校支援ボランティアの指導者の登録状況というご質問でございます。

平成22年度末の登録者数でございます。まず、和楽器や華道、茶道などの技能、芸能分野で16人、それからカヌーやスキーなどのスポーツ分野で32名、それから英語や理数系など、教科指導、あるいは火山や歴史など一般教養分野で97名の合計145名が登録を現在されており、それぞれ台帳各町内の学校において、現在も活用をいただいているところでございます。

議長（千葉 薫君） 下道議員。

9番（下道英明君） わかりました。かなり、思った以上に数字はボランティアの登録は多いのかなと思います。

道教委の学校への支援、また学校改善プランとして、やはりこういう外部人材の活用とい

うのですか、特に退職教育等、外部人材の活用の中でこの有効性が特にうたわれていると思うのですが、学力あり過ぎて、授業が退屈な生徒でありますけれども、これは教育会で言えば落ちこぼれの逆で浮きこぼれということになりますけれども、これは民間の機関がしっかりきめ細かくサポートしていけばいいのですが、ただ今回、私思うのは、基礎、基本のやはり学習につまづいているこの子供たちを、児童生徒をきめ細かく支援していく体制が必要だと思うのです。退職する先生方はやはり、ある程度もう古い知識しかなくて、今の教育に若干合わないのかもしれませんが、やはり心のケアですとか、あとは新しい先生方に対するサポートというのはやはり年の功で非常に的確なアドバイスができると思うのです。

そういった点で、道教委のほうの行政執行方針にもあったのですが、過去、数年間における先ほど課長もおっしゃっていましたが、これは道教育長のほうの執行方針ですけれども、その中で全国平均を大きく下回り、極めて深刻な状況にあると、その中で平成26年度の全国調査までに全国平均以上にしたいと、先ほど課長のほうからありますけれども、そしてまた、解決すべき課題というのは山積しておりますが、改めて本年を本道教育の新たなスタートの年と位置づけ、全力で取り組んでまいるとあったのですが、当町においても教育行政執行の中でいろいろコメントがございましたけれども、うちの教育長の教育行政の方針の中では、これまで4回の全国学力状況調査結果は、学校には差はありますが、平均しますと小中学校ともに全国、全道の平均正答率を下回っていると、確かな学力の育成に向けという形で、若干、道との意識というのですか、文言の差があったと思うので、そういった点でもう少し危機感を持って洞爺湖町の学力向上アップということで取り組んでいただきたいと思うのですが、北海道が本道教育の新たなスタートの年とっておりますので、今、洞爺湖町子供の学びサポート推進会議ですとか、また地域ボランティアの促進などということで取り組んでいると思うのですが、教育長のご見解をお伺いしたいと思います。議長（千葉 薫君） 綱嶋教育長。

教育長（綱嶋 勉君） 当初の全国学力学習状況調査の4年間の結果においては、残念ながら先ほども管理課長からご説明したとおり、全道平均並びに全国平均を下回っている状況が続いていると、小中学校、町内の学校それぞれで学力の向上に対して取り組みはしていただいているところですが、22年度まではそういう結果になっていると。

私、思うには、これは児童生徒の大きく分けると2教科、国語と算数の学習のテストの結果の一部だというふうに思うわけでございますけれども、当然、基本的、基礎的な部分も大多数を占めている状況でございますので、町内の子供たちが結果は別にして、毎日毎日学習している基礎部分等を当然、子供さんによってはスムーズに学習することができない、そういう児童生徒もいると思うのですが、何とかその子供子供に合った、要は学習を身につけていただく、そのためには専門の先生方が小中学校に配置しているわけでございますので、それぞれ子供に合った形で基礎、基本の部分が定着するように、また子供が学習して理解するということは、次の意欲も当然、子供は持つということでございますので、その辺の学習習

慣といいますが、学校だけでなく家庭においてもそういう習慣をつけて、それぞれの子供が学力向上する時期も、その子供によって違うと思うのですが、小学校の部分ではそういう習慣が身につくことによって中学校に行っても、高校に行っても、それぞれの子供に次の大人になった段階で基礎部分がそれぞれの子供にしっかり身につけてほしいと、その願いが教育委員会に携わる我々の責務ではないかというふうに思っておりますので、引き続いて目標はありますけれども、各学校にもお願いし、行政で対応しなければならないものは非常に大変、厳しい財政状況ですけれども、一つ一つ努力していきたいと、そのように思っております。

議長（千葉 薫君） 下道議員。

9番（下道英明君） ぜひ、前進していただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

それでは、教育行政について最後の質問になります。昨年12月の定例会で、子供たちから始まるまちづくりとして、子供議会の開催をご提案いたしました。教育長の行政執行方針にも実施に向けて学校や関係機関と協議しながら検討してまいりたいとありましたけれども、その後の進捗状況をお伺いいたします。

議長（千葉 薫君） 綱嶋教育長。

教育長（綱嶋 勉君） 昨年の12月に一般質問で提案いただいて、学校現場ともいろいろ協議しているところでございます。

現段階では、虻田小学校の6年生が従来から総合学習の時間で、子供の視点でまちづくりを勉強し、子供の視点で改善したいというアイデアなり、意見だったりという、そういう学習の場がございます。それを集約した形で、形はちょっと最終的にはまだそこまで詰まっておりますが、子供議会的な形に実施できるかどうかは別にしまして、小学校6年生がまちづくりに対して子供の視点で意見を集約して、行政側なのか、議会側になるかはちょっとまだ詰めておりませんが、そのような形で実施をしたいということで今、検討しているところでございます。

議長（千葉 薫君） 下道議員。

9番（下道英明君） 実現に向けて、本当にご努力願いたいと思います。

特に、ことしの2月の虻田小学校6年生ですか、洞爺湖町の過去・現在・未来をテーマにして、私ども議員と意見交換したわけですが、特に記憶に新しいところで子供たちの考えたまちづくりというのが非常に有効的であったと、こういった考え方がこの議事堂で理事者に提案できる機会があればと思うのですが、それと子供議会をご提案したのは、確かに小学校6年生であれば、3学期の後ろのほうで公民のお勉強をしますし、3年生なんかも公民という形で、地方自治ですとか、日本国憲法とか勉強するのですが、それと同時に一番、私が求めたいことは、各小中学校、虻田だけではなくて温泉小学校ですとか、洞爺小学校ですとか、そういった三つの地区が一緒になった共同作業という、その中でまちづくりというか、子供たちがワークショップというのですか、そういったものがないのかと、とに

かく各小学校、中学校、ばらばらになっていて、これからどう考えても15年後、20年後、この洞爺湖町において小学校、中学校のあり方ということを考えていったときに、やはり常に横の連絡、先ほど学校間の先生方の横の連絡と言いましたけれども、やはりこれは点と点と点で次の目標というか、次の大きなここ直近の5年、6年の話ではありませんけれども、やはり10年、15年後という、そういうスパンで考えたときに、やはりこの三つの地区の子供たちが何か同じことをする、ただ合唱コンクールとか、いろいろなことがございますけれども、やはりまちづくりという視点から子供議会とか、そういったものをしていただきたいと、そういう思いで提案していったわけなのですけれども、ぜひ単体の小学校で子供議会云々ということではなくて、いろいろなカリキュラム等がありますけれども、ぜひ三つの小学校、あるいは三つの中学校が一緒になった形でこういう子供議会、ほかの他市町もそういった動きをしております、必ず各学校の代表から来ていろいろなまちづくりをしておりますので、提案をしておりますので、ぜひご検討いただきたいと思います。

次に、管理者制度の現況についてお伺いいたします。

洞爺湖町公の施設に係る指定管理者の指定の手続き等に関する条例と、大変、長い条例がございますが、町長において係る条例では、洞爺湖町パークゴルフ場条例、また森林博物館条例、財田キャンプ場条例、洞爺いこいの家条例の4本あると思いますが、各施設における管理運営状況、収支等における当町からの財政負担、指定管理者制度導入しての成果など、この現況についてお伺いいたします。

議長（千葉 薫君） 藤川観光振興課参事。

観光振興課参事（藤川栄治君） 指定管理者制度につきましては、平成21年度から観光振興課の所管している施設といたしましては、歴史公園夕日ヶ丘パークゴルフ場と洞爺湖森林博物館の2施設について指定管理者制度による管理を実施しております、ことしで3年目となっております。

利用状況につきましてでございますけれども、夕日ヶ丘パークゴルフ場につきましては、平成13年にオープンしております、平成15年の年間利用者2万2,490人をピークに近隣市町村のパークゴルフ場の新設等がありまして、利用者数は減少傾向にあります。

指定管理者制度前の3年間で比較いたしますと、平成18年、2万1,566人、平成19年度、1万9,181人、20年度につきましては1万7,664人となっております。

それから、指定管理者制度導入以降でございますけれども、21年度につきましては1万9,124人、22年度につきましては、夏場の猛暑等の関係もございまして1万7,171人、23年度末では、ほぼ前年と同数の8月末現在で1万3,092人の利用者となっております。

それから、森林博物館につきましては、平成18年度7,257人、19年度8,631人、20年度につきましては8,037人の入館者がございました。

制度導入後につきましては、平成21年度8,550人、それから22年度につきましては8,558人、23年度につきましては、東日本大震災の影響もございまして、8月末現在で前年度比84.6%の5,135人となっております。



制度導入の成果といたしましては、その天候やその他の条件により利用者数の増減はございますけれども、指定管理者の努力、それから経費節減等の努力などがございまして、事務作業の効率化の面から一定の効果は上がっていると分析しているところでございます。

それから、指定管理料につきましてでございますけれども、夕日ヶ丘パークゴルフ場につきましては年間105万円、それから洞爺湖森林博物館につきましては58万5,000円を支出してございます。

以上でございます。

議長（千葉 薫君） 山本総合支所長。

洞爺総合支所長（山本 隆君） それでは、洞爺総合支所所管しております指定管理者制度の導入施設についてご説明申し上げます。

洞爺総合支所管内においては、日帰り入浴施設であります洞爺いこいの家と水辺の里、財田キャンプ場につきまして、平成21年度より指定管理制度を導入し、3年目を迎えているところでございます。

いこいの家につきましては、制度導入前とほぼ同じような入館者数で推移しております。参考までに、制度導入前の平成20年度が4万2,492人、制度導入後の平成21年度が4万2,284人の入館者数でございます。

平成22年度につきましては、10月から1月初旬にかけていこいの家の大規模改修工事を行い、約3カ月間の休養期間がありましたことから、前年対比1万2,940人の減少となり、総数で2万9,344人の入館者となっております。

今年度につきましては、リニューアル効果による入館者の増を期待しているところでございますけれども、少子化やアウトドア志向の衰退傾向によるキャンパーの減少など、また地域内人口の減少などが原因と思われるが、大幅な入館者の増は厳しい状況にあります。ただ、施設改修前の入館者数を何とか確保したいと、今、指定管理者において努力をさせていただいているところでございます。

続きまして、財田キャンプ場につきましては、指定管理導入前の平成20年度の利用者が述べて1万3,045人、平成21年度につきましては1万3,868人、昨年は8月に大きな災害が発生しまして利用者の減少が大変心配されたところでございますけれども、何とか1万3,000人の大台には乗っております。

本年度も5月、6月の天候不順で心配な時期もございましたけれども、7月、8月の好天により持ち直し傾向にあります。ただ、いこいの家と同様に、アウトドア志向の衰退によりまして、大幅な増加はちょっと厳しい状況でございます。

何とか、例年並みの入場者を確保できるよう、指定管理者において努力させていただいているところでございます。なお、洞爺地区の指定管理施設につきましては、天候や契機に左右されやすい、先ほども述べましたけれども、集客に大きな影響を持ちますキャンパーが近年の少子化傾向が原因と思われるアウトドア志向の衰退などで減少傾向にありまして、厳しい状況が続くと思っておりますけれども、今後とも指定管理者とともに利用者に喜ばれる利用環境

を整備して、事務作業の効率化や施設のPR活動などについて、指定管理者を指導してまいりたいと思います。

あと、財政負担の関係ですけれども、この両施設とも利用料金方式という形でやっておりますので、町からの委託料については現在、支出ございません。

議長（千葉 薫君） 下道議員。

9番（下道英明君） 当町の財政負担のほうは夕日ヶ丘のほうで105万円と、それと森林博物館のほうは58万5,000円、いこいと財田のほうは管理が発生していないという状況でよろしいですね。

特に、もう少し管理運営状況についてお聞きしたいのですが、指定期間がことしで3年目という形で、見直しのときになると思うのですけれども、事業報告書など以外の運営状況の確認方法があれば教えていただきたいのですが。

議長（千葉 薫君） 藤川観光振興課参事。

観光振興課参事（藤川栄治君） 夕日ヶ丘と森林博物館につきましても、毎月、実績報告を上げていただきまして、それで把握してございます。

議長（千葉 薫君） 山本総合支所長。

洞爺総合支所長（山本 隆君） 財田キャンプ場いこいの家につきましても、毎月の入館者数ですとか、利用料金の徴収額とかを実績報告という形で毎月、提出していただいて確認しております。

議長（千葉 薫君） 下道議員。

9番（下道英明君） わかりました。

あと、施設を絞ってお伺いしてまいりたいのですが、特に夕日ヶ丘パークゴルフ場については、今度、来年、伊達市の有珠のほうに新しくパークゴルフ場ができますけれども、このところで管理会社とどのようなコミュニケーションで事業展望、計画を描いているのかと、また、中島の森林博物館ですけれども、ここ2カ月間、私もちょうど中島のほうに5回ほど行きまして、ちょうど参事が水回りを直しているところもちょっと見させていただいたのですが、これからの将来ビジョン、それは指定管理者とどういったコミュニケーションとりながら計画されているのか、夕陽丘と森林博物館についてお尋ねします。

議長（千葉 薫君） 藤川観光振興課参事。

観光振興課参事（藤川栄治君） 夕陽丘パークゴルフ場と森林博物館、両方につきましてでございますけれども、伊達市のパークゴルフ場につきましては来年4月のオープンということで聞いております。

これにつきましては、現在も当然、指定管理料が伴ってくるわけでございますけれども、現状のところどのぐらいの人数が減少になるかというようなことは、指定管理者の中では協議はしているのですけれども、まだそれ以上のことは非常にはっきりしたところではございません。

森林博物館につきましても、昭和30年の建物ということで老朽化が進んでおりまして、こ

の辺についても指定管理者の努力では補えない問題というようなことでとらえております。この辺につきましても、国等のほうに要望はしておりますけれども、なかなか難しい状況ということで、その辺については今後、十分、協議していきたいということで考えております。議長（千葉 薫君） 下道議員。

9番（下道英明君） 状況のほうは大体わかってきましたけれども、公共施設の管理運営に指定管理者制度というのは導入されてまだ、実際、国で示されたのは8年ぐらい前で、当町においては3年前という形で、日が浅いわけなのですけれども、その制度自体が不透明な現状の中で、特に森林博物館など、自治体として文化政策指針と申しますか、この施設をどうやって利用しようとか、そういったものというのが余り見えないのです。

そういった点で、本来、施設本来の社会的使命と申しますか、明確にしないまま指定管理者制度に乗っかっているのではないかなと思うのです。特に、公共施設における経営ミッションと申しますか、使命というのは、やはり不明確、あるいは行政の政策理念の不透明さだけではなかなか難しいと、結局、施設を将来的に衰弱させていく危険性があると思うのです。

もともと管理者指定制度というのは、サービスの向上と経費の削減という相反するところに難しさがあるのですけれども、財政状況改善の施策をしている中では、どうしても経費削減のほうに偏りがちなのですけれども、行政の単年度会計の限界と申しますか、壊れてから直すと、そういうことで逆に壊れなければ予算がつかえないという現状になっていると思うのです。

極端に言えば、施設によっては今後ですけれども、利用者にサービスもこのままでいいから利用者の数、あとサービスもこのままでいいからコストを半減してくれと、あるいは逆に手出しコストというのですか、例えば森林博物館もそうですけれども、そういったところで若干の応分の負担を町側もするから利用やサービスをもっと向上してほしいと、そういっためり張りある提示というのですか、そういった文化施設に対する運営方針というのが必要なのではないかと思います。

指定管理者制度というのは、本来は民間事業者のノウハウと自発性を活用するのが基本だと思うのですけれども、上手に運用すれば今、言われています、若干、言葉は古くなりましが新しい公共への先駆けになると思うのですが、私は将来的にこの施設に対する利用者、サービスの向上への先行投資を了としたのですが、町長この指定管理制度の今後の運営というのですか、適用、あるいは施設拡大等も他市町村ではいろいろありますけれども、そういったところを含めてご見解をお伺いいたします。

議長（千葉 薫君） 真屋町長。

町長（真屋敏春君） 私どもの町には夕日ヶ丘パークゴルフ場、あるいはいこいの家、これらは町民の健康、あるいは福祉増進の目的で多くの町民の皆様にもご利用いただいているかなというふうにも思っております。

また、パークゴルフ場については、最近、近隣でいろいろなパークゴルフ場ができつつあります。ただ、私どもは当初、建設したときに、主眼は町民の皆様の健康、福祉の増進とい

う目的で整備をさせていただいたかなというふうに思っております。

ただ、余りにも景観がよすぎて、そしてお庭みたいなパークゴルフ場ということの好評から、近隣、または遠くからお客様が来道されて、町内のお客様半分、来道者が半分というふうな運営でやってきましたけれども、先ほども言いましたように、近隣でお金をかけたすばらしいパークゴルフ場がどんどんできつつあるということから、町民のためのいわゆる健康増進につながるような施設に今後になっていただければなというふうにも思っております。

また、いこいの家は一昨年、いわゆるリニューアルオープンをさせていただきましたが、これも洞爺地区でございますが、高台にありまして非常に展望のいいところ、いい温泉でございます。これも、もともとは町民の皆さんの健康増進のためにということでつくられたように聞いております。また、利用者も多い。

ところが近年、いわゆるキャンパーがふえて、そのキャンパーがいこいの家、夏場、非常に利用されていたという部分でございますが、今、担当課長のほうからも答弁ございましたけれども、なかなか近年、キャンパーの数が少なくなっている、これは私ども財田キャンプ場、あるいは洞爺のキャンプ場、月浦のグリーンステイオートキャンプ場等々、あるいは道内のキャンプ場全体がキャンパーの数が少なくなっているということも言われておりますけれども、いこいの家につきましても町民の皆さんの健康増進を目的にということで、これまたリニューアルオープンしたばかりでございますが、何とかきちっと維持管理をしてみたいというふうに思っております。

また、森林博物館とキャンプ場でございますけれども、財田のキャンプ場のほうにつきましては、年々キャンパーが少なくなってきたという部分もございますが、環境がすばらしいところでございまして、リピーターもそれなりについているというお話も聞いております。これも、このまま継続してみたいというふうに考えております。

ただ、森林博物館については、建物自体がやはり相当、老朽化しております。今後、一時期、このあり方をどうすべきかというふうなことで検討も以前にされたような経緯もありましたが、何とかお化粧直しをして、今現在に来ている状況でございまして、ビジターセンターが建設されて、森林博物館を今後どのような形で維持管理していったらいいのかは、今後、十分皆さんと論議、議論、検討を加えながら、そのあり方について検討してみたいというふうにも考えております。

ともかく、入江夕日ヶ丘パークゴルフ場、あるいは財田キャンプ場、いこいの家、これらにつきまして今、指定管理者でその管理運営を行っていただいているところでございますが、これらにつきましては今後もいま一度、指定管理者制度にのっとりながら、その運営をお願いしたいというふうにも考えております。

ただ、森林博物館の今後につきましては、いろいろな角度から皆さんとともに議論を深め、今後のあり方をどうしたらいいのか、どうすべきなのかということを検討してみたいというふうに考えております。

議長（千葉 薫君） 下道議員。

9番（下道英明君） 指定管理者制度については了解いたしました。

それでは、最後の質問の件名に入りたいと思います。安心・安全なまちづくりについてお伺いしてまいります。

先般、台風12号の接近について、接近した際、幾つかの自治体ホームページが注意喚起をしておりました。近隣では、豊浦町、伊達市のトップページで告知しておりました。まず、当町のホームページ更新の運用の仕組み等をいま一度、お教えいただきたいと思います。

議長（千葉 薫君） 森総務課長。

総務課長（森 寿浩君） ホームページ掲載の関係でございますけれども、現在、総務課の情報グループ、ここに各課から載せたい情報を集約して、それで情報グループのほうでホームページに載せているという状況でございます。

議長（千葉 薫君） 下道議員。

9番（下道英明君） わかりました。総務課のほう、そうですね。

あと、緊急性が高い情報というのは、ホームページを使うよりは、むしろ広報車ですとか、いろいろ出ております防災無線、これが有効だと思うのですが、予想される台風情報、土砂災害情報、また通行どめの道路情報などというのは告知にはインターネット、ホームページを使う分には非常に適しているのではないかなと思います。

ただ、いろいろな自治会の勉強会とか、検討会というのがさまざまあると思いますが、そういった書類、レポート読んでみますと、更新の弊害というのは夜間等、即時対応ができないとか、あるいは担当者が限られている、そしてまた掲載内容の確認に時間がかかり、閲覧者が少ないとか、いろいろな問題点、課題があると思いますが、例えば胆振総合振興局のページなんか見てみますと、前回の台風12号のときもそうだったのですが、道庁の総務部の危機対策本部、ここにそのままリンクしているのです。それで、北海道の防災情報のページに飛ぶようにしておりますので、そういった点では昨年、総務部にお願いしてホームページのほう文字が流れる、ニュースティッカーのほうをつくっていただきましたけれども、余り技術的な問題なので、できればトップページのデザインを更新しながら、防災情報のスペースというのは今までなかったと思いますので、ぜひ確保できないのでしょうか。いま一度お願いいたします。

議長（千葉 薫君） 大西企画防災課長。

企画防災課長（大西康典君） ただいまの防災情報の関係でございます。

町のホームページの積極活動についてということでございますけれども、今現在、国道とか道道、または町道の交通規制、災害があったということにつきましては、その報告を受けてすぐホームページに記載をしております。

これは、先ほど言いましたホームページのトップではなくて、そのホームページの中にある防災災害という項目の中に……失礼しました、そのトップの中でうたっているのですが、今、言われました台風とか、そういう警報関係につきましては、実は今までホームページが搭載しなかったという経緯でございます。

今後、その災害、気象情報、特に各種先ほど言われたように対応の問題がございますけれども、各種の警報が発生された場合には職員が片づけるということになっておりますので、そういう中で町民の方々に広く情報提供できるように、その町のホームページでお知らせをしていきたいというふうに思っております。

それから、詳しい気象情報ということになりますと、やはり気象庁ということになるかと思えます。そういうことで、うちの町のホームページから気象庁のホームページにリンクできるような体制を今後とっていききたいなというふうに考えております。

議長（千葉 薫君） 下道議員。

9番（下道英明君） ぜひ、防災に関して、そういう情報、自治体の中で道内ですと、今、三十五、六%、たしかレポート出ていましたけれども、もうトップページのほうで自治体がそういう防災情報等を載せているという形で、これは町内だけではなくて、特に洞爺湖町の場合は観光地でございますので、いろいろな地域から観光する方が来られます。そのときに、どうしても実際にその地域のホームページを見るという、見て確認すると、じゃらんですとか、民間の観光のページを見るだけではなくて、やはりその地元、訪れる地域の自治体のページも見るというのがデータで出ておりますので、ぜひ行っていただきたいと。

これに関連しまして防災情報です、広義の意味でまいりますと、生活関連情報というのですか、こういうのも例えばインフルエンザです。インフルエンザが発生したとか、こういったものというのは、やはり今の小学校、中学校のお母さん方というのはネットはよく見えますので、そういった点で電話だけではなくて、電話で学校の連絡網で行っていると思うのですけれども、例えば洞爺湖町のホームページで、子供たちのインフルエンザというのですか、そういうのが発生したよとか、保育所で発生したよとか、そういったところでいわゆる防災だけではなくて、生活関連情報のやはりタイムリーな情報というのをぜひ、自治体のホームページのほうでも洞爺湖町、先駆的な町だね、自治体ホームページ走っているねというぐらいの形で動いていただければと思います。ホームページにつきましては、5番議員より質問通告がありますので、ここまでにしておきたいと思います。

それでは、最後の質問に入りたいと思います。エゾシカによる農業、林業への食害だけでなく、車両衝突云々ということでございます。

今月初旬にシンポジウム、道新ホールであったのですが、そこでエゾシカを考えるというシンポジウムがございました。そこに参加させていただきました。今まで私、この議会でエゾシカについて何度も質問させていただきました。特に、主に中島の植生回復に軸足を置いた質問、提言をいたしました。シンポジウムでは農林業や野生植物への影響が深刻であるということを確認し、驚いたわけなのですけれども、特に当町において大変、早い時期からエゾシカ対策については一生懸命取り組んでいたかと思えます。

エゾシカ対策協議会が発足した後、早い段階から発足した経緯がございますけれども、またことし道庁は6月にエゾシカ対策室というのを立ち上げました。この取り組みというのは、ことしですから、むしろ洞爺湖町のほうは道庁より早い動きをしていると思うのですけれど

も、また、ことしの4月初旬ですか、町外ではございますけれども、町長の公用車がエゾシカに車両衝突されたということで、今やエゾシカがネットワークを使って洞爺湖町の司令塔までねらってくると、恐ろしい形になってきております。

そういった点で、非常に危険な形なのですけれども、先駆的な協議会を先般解散しましたけれども、その後のロードマップというのをお示しいただきたいと思います。

議長（千葉 薫君） 伝産業課長。

産業課長（伝 正弘君） ただいまのご質問でございますが、議員ご承知のこととは思いますが、誤解されると困りますのでお話ししておきますが、洞爺湖エゾシカ対策協議会というのは、中島のシカ対策を検討する会ということでございます。

その中島のシカ対策につきましては、エゾシカ対策協議会で関係機関と協議をしながら進めてきたという経緯がございます。それで、新たな会の設立の今後のスケジュールとの質問でございますが、新たな会は議員からお話がありましたように、中島の自然環境を保全するというのを目的に、地元関係機関、団体のほか、北海道、森林管理局、環境省、そして酪農学園大学と研究機関も加わった会を想定しておりまして、今、早急に設立に向けた準備作業を進めているところでございます。

議長（千葉 薫君） 下道議員。

9番（下道英明君） 前回、そのエゾシカシンポジウムに参加した際に、いろいろな情報等いただいておりまして、何とか洞爺湖にエゾシカの学者、先生方が来られるたびに私もいろいろワーキングということでお手伝いさせていただいて、いろいろな情報は来ております。

今回、情報の中で環境省の研究総合推進費ですか、そういったのを利用して森林総合研究所、北海道大学、岐阜大学、東京農工大学と連携して酪農学園、5校、ここと平成23年度から25年度までの3カ年での調査研究を実施していくということで、森林総合研究所の方とはお会いしなかったのですが、北大と岐阜大、東京農工大の先生とは私も直接お話をさせていただきました。

そういった中で、この3年間の中であくまでも本プロジェクトというのは、洞爺湖中島のエゾシカ調査研究という中で、平成23年度、24年度、25年度で、最初は弁観のシカの捕獲とか、そういった動きがあるかと思いますが、最終的には先生方のイメージとしては捕獲を200頭ぐらいと、そして最終的に中島に関しては50頭ぐらいを維持させながら、植生破壊の現状というのですか、回復と再生のコンペアというか、比較しながらやっていきたいということが出ておりましたけれども、その中で合意形成を今後していかなければいけないのですが、課長のほうにも若干そういう情報は入っていると思いますが、そこら辺の取り組みについてどういう感触を持っていらっしゃるでしょうか。

議長（千葉 薫君） 伝産業課長。

産業課長（伝 正弘君） まず、環境省の補助事業の関係でございますが、私どもも過去、何度か中島シカ個体群管理計画、これは洞爺湖エゾシカ対策協議会で最終的に決定したものでございますが、それに近づけるべく努力した経緯はございますが、なかなか間引きができ

なかったというのが現実でございます。

今回の調査研究では、そこら辺の捕獲の方法をさらに違った形で研究、実践されるということで、大いに期待しているところでございます。なお、これに伴う地元関係機関といえますか、地元の意見の集約ということも、その項目、どのように集約をしていくかということも一つの研究課題になっているというお話を聞いておりますが、新しい会もできるだけ早く設立しまして、その研究事業に間に合うといえますか、一体となって連携して進めるような形で進めていきたいというふうに考えております。

議長（千葉 薫君） 下道議員。

9番（下道英明君） ぜひ、対策協議会のその後のものを早めに発足をして、いろいろ動いていただきたいと思うのですが、その中でこのプロジェクトが円滑に進んで、捕獲の技術開発が改善されて、また、道内のエゾシカ対策の研究とか、ものに寄与するということができると思うのです。恐らく3年後には洞爺湖エゾシカ対策モデルとか、そういう形で一つのスタンダードになり得ると思いますので、人のふんどしで相撲を取るというわけではないのですけれども、今までやはり予算の問題もありましたけれども、せっかくこういったチャンスがあるので、ぜひこれは少ない予算でも政策予算を使いながらでもやっていただきたいと、支援をしていただきたいと思うのですが、特に調査実施の支援ということでまいりますと、例えば捕獲個体の処理、運搬費用等、これは研究予算では不可能なことでございます。

また、これが次年度以降、ある程度の個体数が処理になってきますと、それなりの金額がかかってきますので、そういったところも北海道の洞爺湖モデルをつくと、そういう意気込みでぜひ、大きなご決断をしていただきたいと思っておりますけれども、真屋町長のほうもひとつこの計画等でございますので、ぜひバックアップして、この3年間でやっていくという思案でございますので、ぜひ町長のほうのお考えをお聞きしたいと思います。

議長（千葉 薫君） 真屋町長。

町長（真屋敏春君） 洞爺湖中島エゾ対策問題につきましては、長年、洞爺湖エゾシカ対策協議会の中でもご論議をいただき、さらには町としてもかなり頭の抱える問題でもございました。

私ども、洞爺湖の自然環境を守る観点からも、今回、このような形で学園大学が中心となった、いわゆる捕獲等々の関係、町のほうといたしましてもできるところにつきましては、できるだけ協力できるような努力をしてみたいというふうに考えております。

ただ、これが3年後、あるいは5年後、10年後になったときに、また同じようなことにならないよう、道のほう、あるいは環境省、そして森林管理局、こちらのほうとも十分、協議しながらその対策に私ども協力してみたいというふうに考えています。

議長（千葉 薫君） 下道議員。

9番（下道英明君） ぜひ、このプロジェクト終了後の管理体制の整備、今、町長のほうからありましたけれども、そういったところを調整しながらしていただいて、二度と町長車が襲撃されないような形で、エゾシカをしっかりと駆除してまいるよう頑張りたいと思います。



思います。

以上で、私の質問は終わります。

議長（千葉 薫君） これで、9番、下道議員の一般質問を終わります。

ここで、休会に入ります。

再開を25分といたします。

（午後 3時15分）